

令和6年度市民協働推進会議・公益活動事業補助金及び 協働事業提案制度公開プレゼンテーション 会議録

日 時	令和6年6月4日（火）18:00～21:00
会 場	北広島市役所3階 会議室3C・D
出席委員	橘委員、山口委員、高嶋委員、原口委員、米一委員
傍 聴 者	0名
市出席者	【市民環境部】阿部部長、山田次長 【市民生活課】高橋課長、立野主査、中島主任 【協働事業提案制度担当部署】子ども発達支援センター 高屋センター長 健康推進課 影久課長

1. 開会

「委員の過半数が出席していることから、会議が成立していること」を確認。

審議事項については非公開とし、議事録も協議事項の部分を除き公表することを諮り、了承。
会議録署名委員に米一委員を指名。

2. 審査についての事前説明

事務局から各種制度の概要及び審査方法等を委員に説明。

～質疑応答～

《特になし》

3. 公益活動事業補助金 公開プレゼンテーション

■「松葉町第1自治会創立50周年記念誌の発行」

松葉町第1自治会から資料に沿って報告

～事前質問～

○事業収支予算書の支出の部について

①印刷製本費の単価400円は、ダイジェスト版のことか。

②資料のコピー（単価10円）の内容は何か。

●①ダイジェスト版印刷を単価400円で計算している。

②図書館等で集める資料のコピーの単価を10円として考えている。

○今回の記念誌の発行により、今後、自治会活動の発展にどのようにつながるか。

●記念誌発行は、この自治会が今後も消滅せずに継続するということを前提としている。高齢化・少子化がかなり進んでおり、「役員をやりたい人」ではなく「役員をやれる人」が少なくなっている。その中でどのように自治会を運営していくかは意見が二つに分かれる。ひとつは、できるだけ活動を少なく最小限にし、役員の数も減らして自治会の活動を制限していく。もうひとつは、活動を活発にして今の状態を何とか持ち直していく方法。

～質疑応答～

○A 委員

令和6年度市民協働推進会議・公益活動事業補助金及び 協働事業提案制度公開プレゼンテーション 会議録

支出の部の「印刷製本費 200部×400円」とあるが、町内会の世帯数は146世帯であり、200部というのは予備で多めにしているのか、それとも100部単位で発注しているのか。

●松葉町第1自治会

200部の内訳は、146部が各世帯への配布で、残りはかつて住んでいた方から要望があれば配布できるように予備として用意する。

○A 委員

余ったらもったいないので、要望の有る無しではなく配ってもよいでは。

●松葉町第1自治会

転居先の住所を全員分把握しているわけではないので、事務局で保管し、問い合わせがあれば配布するということを考えている。

○B 委員

紙で発行するのはダイジェスト版ということは、記念誌は主にネットで見ることになると思うが、その場合、そういった媒体を持っていない住民の方に見ていただく機会を設けるということは考えているのか。

●松葉町第1自治会

それも考えてはいるが、ご高齢の方に集まってもらうのもなかなか難しい。ただ、記念誌をインターネットに残しておくことで、今後自治会が続いていき、20年後30年後に振り返った時に記録があるというのは良いのではと考えた。

○C 委員

備品購入のボイスレコーダーについて、今はスマホでも録音できるが、購入するということは今後の自治会活動での活用も考えているのか。

●松葉町第1自治会

具体的にはまだ考えていないが、今後も会報を作る時などに利用できるのではないと思う。実際買うのは1台だがもう1台個人で持っているものがある。座談会などでは2台用意して同時に録音する予定。

○D 委員

事前質問の『記念誌の発行により、今後、自治会活動の発展にどのようにつながるか』についての回答がないように感じた。記念誌の発行はいろいろな団体で行っているが、作った物を活かしきれていない。今後どう活用していくか意識していくことが非常に大切。作ったものをみんなに見てもらい、自治会や住民にどういうメリットが出てくるのかを考えて製作して欲しい。

●松葉町第1自治会

難しい問題だと思う。インターネット上に残しておくのも一つの方法ではないかと思う。インターネット上に残す分にはお金はかからないし在庫の問題もない。ただアクセスしてもらえかどうかの問題がある。

■「青葉町二丁目自治会 50周年記念事業」

青葉町二丁目自治会から資料に沿って報告

令和6年度市民協働推進会議・公益活動事業補助金及び 協働事業提案制度公開プレゼンテーション 会議録

～事前質問～

- 将来の担い手となる若い方に対し、祝賀会への参加呼びかけや今後の自治会活動への働きかけなど、何か取り組むのか。
- 子ども会のメンバーを活用し、子どもが参加できるような場を作ればその両親も一緒に参加して交流を深められる。横のつながりを広めて自治会が存続できるようにしていきたい。50周年記念事業はその一環。

～質疑応答～

○B 委員

記念誌は自主製作とのことだが、資料には「9月資料の返却、製本発注」とある。これはどういうことか。

●青葉町二丁目自治会

これは最初の計画段階のもので、製本を頼もうと思った時に書いたもの。今回は私たちが作ろうということになった。これはあくまでも参考としてみていただければ。

○C 委員

事業名称が「50周年事業（記念誌発行事業）」となっているが、予算書では祝賀会の経費も入っている。

●青葉町二丁目自治会

予算書には入っているが、補助金の対象には入っていない。

○C 委員

記念誌発行のための事業かと思ったが全体的なものということか。

●青葉町二丁目自治会

そのとおり。

○E 委員

祝賀会の横断幕として7,000円計上されていますが、対象外ということか。

●青葉町二丁目自治会

横断幕は補助対象内で計上させていただいている。飲食費だけが対象外。横断幕を対象としているのは、記念誌発行の場を祝賀会としているため。

○A 委員

記念誌を自分たちで作ることに変えた理由は。

●青葉町二丁目自治会

費用の問題と自分たちのプリンターで印刷したほうがきれいにできるから。自前で作ると必要な分だけ作ることができるので無駄がなく経費節減になる。

○A 委員

自分たちで作ると記憶に残るし良いと思う。

○D 委員

記念誌を今後どう活かしていくのか。

令和6年度市民協働推進会議・公益活動事業補助金及び 協働事業提案制度公開プレゼンテーション 会議録

●青葉町二丁目自治会

30周年、40周年とやって、今回50周年を迎え、今後10年ごとにこうした事業をやっていくのかを話し合いの場で決める必要があるが、私は重荷になるのではないかと思う。記念誌を作るということによって自治会の役員になりたがらない。松葉町の方も言われていたが事業を少なくして何とか会員数を確保したいということも考えたが、自治会を盛り上げるために、世代交代のための何かを残したいという思いがある。今、働きながらも役員ができるのでPRしているが、効果が薄い。記念誌作成が自治会の重荷になるかもしれないがデータとして残しておきたい。

過去の記録や会報をまとめるだけでは意味がないので、これからやろうかと思っているのが、この町に新しく来てくれた人が見てこの地域はどういうところなのか分かってもらえるものを作る。地域の細かい情報も載せて、新しく来た方の為になるような、町内会の活動を知ってもらえるようなイメージを持って取り組みたい。

3. 協働事業提案制度 公開プレゼンテーション

■「北広島こども元気UPサポート事業」

北広島こどもの成長を考える会から資料に沿って報告

～事前質問～

- 提出資料のうち、「前年度の活動報告書及び収支決算書」と「日頃の活動がわかるもの」が添付されていないが、活動実績がないということか。
- もともとNPOで活動していたメンバーが集まった。2005年に、東京から医師に来ていただいて講演会を開いた実績がある。その後、事情によりNPOは解散したが令和元年に勉強会をしたのが直近の活動となる。発信としてはそれだけだが、先程の事例にあった市町村等から意見を聞くような情報収集はしていた。
- 役員・会員8名のうち、医師や栄養士など専門家はいるのか。
- 会の構成員にはいないが、専門家とのつながりはある。
- サプリメントなどの処方箋は、専門家が責任をもって行う必要があると思うが、どのような責任体制になっているのか。
- 厚生労働省のホームページを参考にしており、位置づけとしては、医薬品以外のサプリメントは全部食品という扱いになる。何を食べるかは基本個人の選択になるが、例えばビタミンC等は錠剤・カプセルで売っており、これらはすべて食品衛生法別表に記載されている食品添加物に規定されたものとなる。ビタミンCは食品に酸化防止剤として入っており、法的には「特殊な栄養機能食品を除き、すべて食品」という扱いのため、サプリメントの専門家というのはいないのが現状。責任体制については、情報提供は私ども団体が行うが、信頼できるものかどうかは市の担当で十分に精査していただくのが大前提で、市から委託を受けて事業を実施する形になると認識している。

令和6年度市民協働推進会議・公益活動事業補助金及び 協働事業提案制度公開プレゼンテーション 会議録

～質疑応答～

○A 委員

採血は何歳から対象か。

●北広島こどもの成長を考える会

下は2歳から可能。基準も変わらない。

○A 委員

1回にどれぐらいの量を採血するのか。

●北広島こどもの成長を考える会

採血のスティック3本、40cc程度。

○A 委員

子どもは採血を嫌がると思うが、簡易的な検査では難しいのか。

●北広島こどもの成長を考える会

指先採血で認められている検査項目では難しい。

○B 委員

役務費が375,000円とあるが、内訳を教えてください。

●北広島こどもの成長を考える会

人件費という位置づけで、我々が委託を受ける際に、依頼者の食事内容やお子様の様子、好き嫌いを含めて聞き取りをし、3回の採血の間にも様子の変わり方やサプリメント等を飲んでいるのかなどのヒアリングに要する経費として計上している。

○B 委員

時給5,000円ということか。

●北広島こどもの成長を考える会

はい。保健師への依頼を考えており、その程度の金額を想定している。

○C 委員

直近の講演会が令和元年ということだが、ここ最近ではこういうお話をされたことはなかったのか。また、この事業について、保護者等からは是非やってほしいというような声はあったのですか。

●北広島こどもの成長を考える会

直近が令和元年の活動ということで、実際問題として、どこに届けるかというハードルがあり、それが市との協働が必要な理由でもある。民間団体ではアプローチが難しい。

○C 委員

市との協働は安心・信用を得るためということか。

●北広島こどもの成長を考える会

なぜ市に入って欲しいかというと、採血で必要な栄養素がわかるとなれば、そのデータが市に溜まっていくので、ゆくゆくは市に事業として継続していただきたいという思いがある。

○D 委員

具体的に考えている活動は何か。

●北広島こどもの成長を考える会

令和6年度市民協働推進会議・公益活動事業補助金及び 協働事業提案制度公開プレゼンテーション 会議録

まずは勉強会を3回予定している。勉強会で興味を持っていただいた方がいれば、事業の進め方や採血場所、食事改善といったものを具体的にヒアリングして、それを2か月に1回、計3回実施する。200名を対象にして1回に10人程度をサポートしたい。

○D 委員

医師の協力は確保できているのか。

●北広島こどもの成長を考える会

ネットワークとして栄養に詳しいドクターはいる。ただ、本事業は医療行為ではなく、栄養をどう評価するかというだけなので医師は必要ない。

○D 委員

採血は医師でなければいけないのでは。

●北広島こどもの成長を考える会

そのとおり。それは市から小児科に依頼していただく。

○D 委員

採血した後の検査はどのようにするのか。またそのデータは確実に取れるのか。

●北広島こどもの成長を考える会

採血で出てきたフェリチンのデータを本人から提供いただく。

ただ、小児科では、医療行為ではなく栄養の不足のデータ取得のためという目的だと採血をしてもらえない可能性はある。

○D 委員

その可能性の方が高いのではないか。

●北広島こどもの成長を考える会

北広島の小児科で採血が難しい場合は、札幌まで行ってもらうことになる。札幌であれば協力してもらえる医療機関がある。

4. 審議事項 ※ここからは非公開

令和6年度 公益活動事業補助金 審査

令和6年度 協働事業提案制度 審査

6. その他

事務局から市長への答申の流れを委員に説明。

7. 閉会